

令和元年度

教育委員会定例会（1月）議事録

四條畷市教育委員会事務局

教育委員会定例会

1 開催日時・場所

令和2年1月22日(水) 10時00分から10時40分

四條畷市役所 東別館2階 201会議室

2 出席委員

教 育 長	植田 篤司
教育長職務代理者	山本 博資
委 員	吉田 知子
委 員	竹内 千佳夫
委 員	佃 千春

3 事務局出席者

教育次長兼教育部長	開 康成	教育部上席主幹(教育総務担当)兼学校教育課人権教育・教科指導担当課長兼教育センター長	木村 実
教育部次長兼青少年育成課長兼主任	阪本 武郎	生涯学習推進課上席主幹(生涯学習推進担当)兼主任	村上 始
教育部次長兼学校教育課長	上井 大介	公民館長兼主任	神本 かおり
教育総務課長	板谷 ひと美	図書館長兼主任兼田原図書館主任	田中 学
生涯学習推進課長	安田 美有希	学校給食センター所長	林 雅弘
		教育総務課主任	古市 靖之

4 議事録作成者

教育総務課 古市 靖之

5 付議案件

議題 第1号	四條畷市文化財愛護基金条例施行規則の制定について
報告 第1号	四條畷市立なわてふれあい教室条例の一部を改正する条例案について
報告 第2号	平成30年度 四條畷市教育委員会 点検、評価 について
その他	土曜日フォローアップ教室の今後の展望 学校施設修繕計画の策定について

<p>植田教育長</p>	<p>皆さま、おはようございます。 ただいまから1月の教育委員会定例会を開催します。</p> <p>それでは、四條畷市教育委員会会議規則第5条第2項の規定に基づきまして、会議録署名者の指名を行います。 本日の会議録署名者は、山本教育長職務代理者をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。 議案第1号 四條畷市文化財愛護基金条例施行規則の規定を制定についてを議題といたします。 それでは、事務局から本件の内容説明を願います。</p>
<p>村上生涯学習推進課上席主幹（生涯学習推進担当）兼主任</p>	<p>議案第1号 四條畷市文化財愛護基金条例施行規則の制定について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第15条第1項の規定により、四條畷市文化財愛護基金条例施行規則を制定することについて議決を求めるものでございます。</p> <p>提案理由につきましては、四條畷市文化財愛護基金条例第7条の規定により、四條畷市文化財愛護基金条例施行規則を制定したく、本案を提案させていただきました。</p> <p>2枚めと3枚めの四條畷市文化財愛護基金条例施行規則（案）と四條畷市文化財愛護基金条例をご覧ください。 今年度設置しております特定目的基金の在り方の見直しを検討する「基金の在り方庁内検討委員会」におきまして、施行規則が制定されていない条例については、公金を適切に取り扱う必要があることから、施行規則を制定すべきとの結論に至りました。</p> <p>つきましては、四條畷市文化財愛護基金を活用していくにあたり、四條畷市文化財愛護基金条例第1条（設置目的）に記載の「本市文化財愛護のため」という抽象的な文言につきまして、基金の対象事業を明確にするため、四條畷市文化財愛護基金条例施行規則（案）の第2条に基金の対象事業としまして、（1）文化財の保護、継承に関する事業、（2）文化財の普及啓発に関する事業、（3）文化財の活用に関する事業と明記いたしました。</p> <p>以上です。 よろしくをお願いいたします。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 では、本件につきまして、質疑等ありましたらお願いいたします。</p>

山本教育長職務代 理者	<p>施行規則の制定につきましては、特に異議がないんですけども、現在文化財愛護基金という、基金につきましては、残金はどれくらいございますか。</p>
村上生涯学習推進 課上席主幹（生涯学 習推進担当）兼主任	<p>平成30年度の決算でございますが、5,333万9千円となっております。</p>
植田教育長	<p>その他、質疑等ありましたらお願いいたします。</p>
植田教育長	<p>（「なし」の声）</p>
植田教育長	<p>では、特にないようでございますので、ここでお諮りいたします。 議案第1号 四條畷市文化財愛護基金条例施行規則の制定について、原案のとおり可決することに異議ございませんでしょうか。</p>
植田教育長	<p>（「なし」の声）</p>
植田教育長	<p>異議がないようですので、議案第1号については、原案のとおり可決することに決しました。</p>
植田教育長	<p>それでは、次に移ります。</p>
阪本教育部次長兼 青少年育成課長兼 主任	<p>報告第1号 四條畷市立なわてふれあい教室条例の一部を改正する条例（案）についてを議題といたします。 事務局から、本件の内容説明を願います。</p>
阪本教育部次長兼 青少年育成課長兼 主任	<p>報告第1号 四條畷市立なわてふれあい教室条例の一部を改正する条例（案）についてでございます。</p> <p>各ふれあい教室、保護者会等で管理しているおやつ代等につきまして、現金の取扱いによる事故防止及び保護者等の負担軽減の観点から、四條畷市立なわてふれあい教室条例の一部を改正する条例議案を、四條畷市議会2月定例議会に上程することを報告させていただきます。</p> <p>資料につきましては、本日机上配付させていただいております。</p> <p>続きまして、説明に移らせていただきます。</p> <p>まず、本業務は、子ども未来部の所管する事業を教育委員会が補助執行と</p>

<p>(阪本教育部次長兼青少年育成課長兼主任)</p>	<p>いう形で分掌しております。</p> <p>このことから、議会上程案件でございますが、報告という形を取らせていただきます。</p> <p>今回の改正内容でございますが、各ふれあい教室で保護者会等が中心となって、おやつ代を徴収のうえ、配布している事業につきまして、近年、保護者会そのものが組織できなくなっている教室や、実態といたしまして、ふれあい教室指導員の協力がなければ運営ができないといった状況となっております。その実施方法について見直しが急務となっております。</p> <p>そのため、ふれあい教室の利用料と同様に補食費及び教材費を市が徴収し、予算の定めるところにより、おやつや各教室で使用する教材を購入していくため、内容の一部を改正するものでございます。</p> <p>新旧対象表をご覧ください。</p> <p>改正内容といたしましては、条例第10条見出中、利用料を利用料等といたします。</p> <p>第1項「利用料」の次に、「補食費及び教材費」を加えることとしております。</p> <p>次に、同条第3項といたしまして、補食費及び教材費は別に定めるとしております。</p> <p>実際には、規則もしくは要綱で、金額、実費相当分を想定しております。</p> <p>最後、附則といたしまして、令和2年4月1日からの施行とさせていただきます。</p> <p>また、2月の定例会では、施行令、規則あるいは要綱の報告をさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、本件につきまして、質疑等ございましたらお願いいたします。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>金額的には、利用料+αとなりますけども、いくらぐらいを想定してますか。</p>
<p>阪本教育部次長兼青少年育成課長兼主任</p>	<p>現状、1ヶ月あたり1,500円で保護者会運営しておりますが、土曜日の出席率が低いため、土曜日を除いておやつ代1,100円、それから教材費として200円、合計1,300円を想定してございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>その他、ご質問等ありましたらお願いいたします。</p> <p>(「なし」の声)</p>

<p>植田教育長</p>	<p>特にないようでございますので、次に移らせていただきます。</p> <p>それでは、次に、報告第2号 平成30年度四條畷市教育委員会点検、評価についてを議題といたします。</p> <p>では、事務局から、本件の内容説明を願います。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>報告第2号 平成30年度 四條畷市教育委員会 点検、評価についてでございます。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、点検、評価の結果に関する報告書を作成しましたので報告いたします。</p> <p>平成30年の実施事業における点検、評価に際しては、これまでの学識経験者からの意見を受け、実施方法に次の3点の変更を加えました。</p> <p>まず、評価項目について、市民が教育施策の全体を把握しやすくするため、事業ごとから施策ごとの評価に項目を変更しました。</p> <p>また、評価に具体性を持たせるため、施策の妥当性、効率性、有効性の3点からの評価するよう変更を加えております。</p> <p>また、活動内容をより具体的にお示しするため、評価シートの様式に活動指標を記載する項目を加えました。</p> <p>これをもちまして、今年度は学校教育分野を元大阪教育大学教授の島先生に、社会教育分野を京都女子大学の岩槻先生にご評価いただき、評価シートに修正を加えたうえ、本日お示しの報告書として編集いたしました。</p> <p>報告書13ページから53ページが各施策の点検、評価シートとなっており、54ページに先生方からの意見、助言を総評として添付しております。</p> <p>報告は以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、本件につきまして、質疑等ありましたらお願いいたします。</p>
<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>外部評価者からの意見、助言のところ、島先生の部分、評価の項目3点について、「更なる検討を行われたい」というふうに書かれていますけれども、これについて、何か具体的なシートはございましたか。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>評価の部分で、施策の妥当性、効率性、有効性3点からの評価としておりますが、施策によっては、妥当性や効率性という評価が馴染まないような施策もあるので、引き続き検証を進めながら、より良いものにしていったらどうかというご意見をいただいております。</p>

山本教育長書職務 代理者	<p>評価の項目の妥当性、効率性、有効性という部分については、評価する場合の項目としては、最低限必要だと思いますが、効率性のなかに、「コスト削減、利便性向上の余地はないか」と書かれています。</p> <p>コスト削減については良いのですが、利便性向上と書かれている部分を読んだときに、少し違和感を覚えました。</p> <p>確かに利便性を向上する余地があるところもありますし、実際、施設等の立地条件等から極端に言うと、施設の場所を移せば、ある程度利便性が向上されるということもあるかとは思いますが、これらは単年度の評価としては、そぐわないところがあるのかなという印象を持ちました。</p>
植田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他、質疑及びご意見等いただきましたら幸いです。</p>
佃委員	<p>私も不勉強でわかっていないところがたくさんあると思うのですが、まず、活動指標を今年度からいろいろ定められたということですが、この指標を今後、何年間スパンではこの指標でいくとか、または、内容によっては、来年この指標ではというのもあると思うんですけども、その辺の指標の有効期間について教えてください。</p>
板谷教育総務課長	<p>指標をつけさせていただいたのが今年度のシートからということで、その指標の有効期間に関し、特に条件の方は設けておりません。</p> <p>指標を入れた理由としましては、活動に関して数字で示す方が市民の方にわかりやすいのではないかというご意見をいただいたからです。</p> <p>今後、指標の目標であるとか、期間もつけたいと考えており、研究の余地がある部分であります。</p>
佃委員	<p>今、過去2年間、つまり3年前まで遡ってデータを出されているのですが、今年度基準として、ここから向上していることをめざすとすれば、この指標は最低3年は生かしていきたいとか、または有識者からもご意見があって、この指標やはりまだ使えないとなると今年度見直しとか、今年度うまく使われるとすごくいいなと思ったものですから申し上げました。</p> <p>15ページのところに、その評価、点検シートの中身、お聞きしてもいいですか。</p> <p>そこに「学力の向上」という大事な項目があるんですけども、そのなかの5番、教職員研修の充実というところで、「市費で教職員を秋田県、東京都に派遣し」とあったのですが、どれぐらいの人数が、どこに何を見学にいらしたか覚えておられたら教えていただきたいです。</p>

<p>上井教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>ただいまのご質問にお答えいたします。</p> <p>まず、秋田県ですけれども、秋田県学力向上フォーラムに参加をさせていただいております。</p> <p>指導主事が1人、そして学校の教員が、全校原則1人ということでお声掛けさせていただいたのですが、ちょうど11月の時期で、学校行事等との兼ね合いで、全校からは参加できませんでした。</p> <p>併せて、東京都でございますけれども、こちらは、本市が進めております支援教育の視点を取り入れた授業づくりということで、日本授業UD学会の全国大会に参加しております。</p> <p>こちらも指導主事1人と、参加可能な学校から1人ないし2人に参加していただいているという状況でございます。</p>
<p>佃委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>その下の活動指標のところに、「学識等校内研修講師派遣回数」というのを指標にされています。</p> <p>これはどういった人が講師で派遣されている回数なのでしょうか。</p> <p>例えば、市の校長OBがいらっしゃったのもカウントされるのか、または、予算を活用しての講師を呼ばれた時だけがカウントされてるのか、その辺はどうだったんでしょうか。</p>
<p>上井教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>こちらは、佃委員から後半にお話いただきました、予算を活用して派遣した回数です。</p> <p>主には、学校で予算措置しております特色のある教育実践にかかる予算ということで、各学校が進める校内研修等の推進を含む学校の特色づくりに活用しています。</p> <p>内容につきましては、校内研修、主に昨年度は、小学校では国語科を研究しておりましたので、国語科を研究されている学識経験者、その他子ども理解関連の講師の先生をお招きして研修を行ったということで記載しております。</p>
<p>佃委員</p>	<p>今おっしゃったことを指標とするのであれば、予算があるからこの回数になるということであるなら、予算が増えない限り回数が増えないと思います。</p> <p>研修参加者人数とかを指標にされた方が、もう少しいいのかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>上井教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>ご指摘いただいた内容については、今後検討したく思います。</p> <p>ただ、この間、並行して、指導主事が校内研修に出向き、指導助言をする機会も増えております。そういったことも、内容に盛り込んでいくような形</p>

<p>植田教育長</p>	<p>で考えていきたいと思っております。 ありがとうございます。</p> <p>その他、ご質問、ご意見等いただきましたらありがたいです。お願いします。</p> <p>本件につきましては、多岐にわたりますので、今日の定例会のみならず、また後日、改めてでも結構でございますので、ぜひ改善等へのご意見、もしくはご提言等いただけましたらありがたく思います。</p> <p>その他、ご質問等なければ、ここで終えさせていただきますが、いかがでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。 それでは、その他の案件に移ります。</p>
<p>上井教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>土曜日フォローアップ教室の今後の展望について、お話させていただきます。</p> <p>平成24年度策定の「四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画」のなか、4つの柱のひとつ「フォローアップ対策」として、学びの場の位置づけのもと、土曜日フォローアップ教室を開催してまいりました。</p> <p>この間、月1回から2回へ、当初公共施設4カ所開催から、現在は、学校会場4校を含む6カ所での開催へ、そして子どもたちのさらなる登録や参加につなげるべく、子どもたちのより一層の学習への興味付けが図られるよう、内容も「わかる科」、「はてな科」、「なわて科」の枠組みをつくり、取組み充実に向け進めてまいりました。</p> <p>そこで、今後は、これまでの経過を大切に、また、尚一層の内容充実を趣旨に、子どもたちがより参加しやすく、放課後の居場所づくりの充実、及び真に支援が必要な子どもたちへアプローチを図るために、青少年育成課所管の「放課後子ども教室」における「まなび舎」に本取組みを位置づけ、平日放課後、学校での開催として進めてまいりたいと考えております。</p> <p>つきましては、学習支援補助員、学校との調整は学校教育課、放課後子ども教室としての位置づけから予算措置や大枠の運営は青少年育成課と役割分担を行い、予算要求を行っているところでございます。</p> <p>この先、青少年育成課への予算措置がなされましたら、教育部内及び学校現場、さらには地域をも巻き込んだ横断的な取組みに邁進し、子どもたちの</p>

<p>(上井教育部次長兼学校教育課長)</p>	<p>フォローアップのみならず、学びの意識醸成を図るべく取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>土曜日フォローアップの今後ということでございます。</p> <p>本件につきまして、質疑等ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>今まで、土曜日フォローアップ教室は年間20回ほどしていただけたと思いますが、放課後子ども教室へ移行した場合、回数的にどうなりますか。</p>
<p>上井教育部次長兼学校教育課長</p>	<p>現在は実施をしない月もございますが、月2回、年間概ね20回程度を目標に行っております。</p> <p>放課後子ども教室自体は、各地域、学校区によって回数は様々と聞いております。なお、この位置づけのなか、まなび舎の開催については、各校概ね揃えていきたいと思っており、土曜日開催時と同様20回程度を想定しております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>その他、ご質問等ありましたらお願いいたします。</p> <p>(「なし」の声)</p> <p>その他案件その2としまして、学校施設修繕計画の策定についてお願いいたします。</p>
<p>板谷教育総務課長</p>	<p>昨今、全国的に学校施設の老朽化等に起因する事故や不具合が少なからず発生している状況に鑑み、これらを未然に防止したく、学校施設の維持管理について、今後の方針を明確化すべきと認識しております。</p> <p>このことから、現在、定期的な法定点検の指摘事項や劣化度に基づき、四條畷市学校施設修繕計画の策定に向け取組みを進めており、来月、2月定例会への上程を予定しておりますのでご報告申し上げます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>植田教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>確認、質問等ありましたらお願いいたします。</p> <p>(「なし」の声)</p>

植田教育長

では、その他案件、引き続きまして、私からG I G Aスクール構想についてご報告申し上げます。

G I G Aスクール構想、「未来の教室」ということで、まずは国の動き、そして、現在進んでいる状況について共有をさせていただきます。

まず、昨年の秋でございますけれども、首相官邸、内閣府で、このようにS o c i e t y 5 . 0時代に向けた人材育成ということの基本方針策定がされております。

これに併せて、経済対策ということを踏まえて、とりわけ、この教育に関するところで、I C T環境整備と、それからE d T e c hを用いたというようなこういう大きな二つの柱が出ております。

これを概観しますと、G I G Aスクール構想というのは、文部科学省主管のもとに、児童生徒に1人1台の端末を整備し、併せて高速ネットワークも整備をする、これがG I G Aスクール構想の大枠でございます。

加えて、これをハードウェアとするならば、ソフトウェアの分野として、「未来の教室」という事業名で、経済産業省が新しい教育のスタイルを提言されています。

大枠この2つを合わせ、教育のイノベーション、革新を図るうえで、個別最適化とS T E A M、これはS c i e n c e、T e c h n o l o g y、E n g i n e e r i n g、A r t、M a t h e m a t i c sの略でございますが、こういった観点で大きな変革を進めようということでございます。

G I G Aスクール構想については、先ほど申しましたように、児童生徒1人1台の端末及び高速ネットワークという、いわばインフラストラクチャーの部分に当たるわけです。

これが令和5年度までに、段階的に、最初は小学5学年、6学年、中学1学年から始まりまして、最終小学1学年、2学年という、こういうカバーの仕方で進めていくという構想です。

ただし、ネットワークにつきましては、これは来年度、令和2年度のみということで、早期の実現を構築を図ることを国は示しているわけでございます。

ざっくりですが、もともと各地方自治体において3クラスに1クラス分の整備ということが前提となっていて、残り3分の2にあたる部分を国がサポートするという形です。

ちなみにネットワークについては、実質80%を国がというようなこういう大きなフレームであります。

なお、「未来の教室」については、後ほど触れますが、経済産業省の令和元

<p>(植田教育長)</p>	<p>年度の補正予算として10億円が計上されて進めていくということになります。</p> <p> 昨年の12月27日、最終日におきまして、まず大きな説明がありました が、その後、今年に入りまして1月16日に京都、翌日が東京で、首長、教 育長、指導主事及び予算環境整備担当対象に学校ICT活用フォーラムとし て、明確にターゲットを決めたセミナーがございました。</p> <p> いずれにおきましても、萩生田文部科学大臣のメッセージがすべてを網羅 しておりますので、まずこれをお聞きいただきたいと思えます。</p> <p> (萩生文部科学大臣のメッセージ動画が流れる)</p>
<p>植田教育長</p>	<p> ちなみにご覧のように、その他、文部科学省のメッセージ、それから具体 な事例としては、草津市と淡路市の取組みが紹介されていきました。</p> <p> ちなみに東京会場では、つくばなどの事例もあったかと思えます。</p> <p> こういった内容を進めていくわけですが、このGIGAスクール構想は、 あくまでもハードウェアです。</p> <p> パソコンとネットワークです。</p> <p> ソフトウェア、そして利用形態をどうするかが肝でございまして、GIGA スクール構想上、この経済産業省が進めていらっしゃる、「未来の教室」 というコンセプトがあります。</p> <p> ただ、この「未来の教室」は、タイムスパンを明確に分けていまして、ま ずは、第1ステップ、グループでの調べ学習、当然ながら調べたものを集め、 そしてそれを構成して、仲間とディスカッションをするというこういう形態 です。</p> <p> それからもう1つ大事なことが、発達特性の強い児童生徒への学び支援と いうところ、ここにまず第1ステップの主眼があります。</p> <p> 第2ステップでは、プログラミング教育の実践、そして、第3ステップで、 これが個別最適化、STEAM化ということで、別名EdTechというツ ールを使った個別最適な学習の形態を図っていく、大枠こういう流れでござ います。</p> <p> ちなみに経済産業省が描いている「未来の教室」のコンセプトがこちらで、 重複しますが、学びのSTEAM化と学びの個別最適化。</p> <p> そしてもう一つが、学校BPR、ビジネス、プロセス、リエンジニアリン グ。</p> <p> 業務改善ということで、先ほど文部科学大臣の話もありましたように、学 校の業務改革もあわせて、これが進んでいくというところが、「未来の教室」</p>

<p>(植田教育長)</p>	<p>のコンセプトとなります。 では、最終、第3ステップの事例をご覧ください。</p> <p>(千代田区立麴町中学校事例が流れる)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>「未来の教室」を続けますと、知識習得のための時間をこのようなA I教材を使ってかなり短縮し、空いた時間を用いて、いわゆるアクティブラーニングをするということが示されています。</p> <p>もう1つ重要なことは、様々な特性を持つ子どもたちにおいて、特に、例えば別室登校や不登校という子どもたちの大きくサポートが進むということも紹介がされています。</p> <p>以上、こういった未来を見据え、まずは環境整備、インフラ整備から始まり、最終的には、学校の学びの形態が大きく変革されるというところまでの構想、これがこのG I G Aスクールと「未来の教室」というところでございます。</p> <p>私たち教育委員会もできるだけこの流れを、しっかりキャッチアップしていきながら、新しい学校の姿というところを、子どもたちの学びに向けて進めたいなと感じております。</p> <p>以上、報告を終わります。</p> <p>それでは、今の件につきまして、もしご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>その他案件で、事務局から追加報告等ありましたらお願いいたします。</p> <p>その他、委員の皆様から、特にございませんでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
<p>植田教育長</p>	<p>これで本日の予定の案件審議は、すべて終了しました。 これをもちまして、本日の教育委員会、定例会を閉会いたします。 どうもありがとうございました。</p>

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和2年1月22日

四 條 畷 市 教 育 長

植田 篤司

四條畷市教育委員会教育長職務代理者

山本 博資